

「先祖さまを地震から守ろう」。東日本大震災を受け、老舗石材店「安震」（愛知県岡崎市）の免震技術が、脚光を浴びている。振動を吸収する特殊な半固体状のゲルと接着剤を使い、重い墓石や石灯籠が倒れないようにする技術。震災を機に注文や問い合わせが増え、対応に追われている。

脚光を浴びている免震ゲル「安震はかもり」と杉田規久男社長＝愛知県岡崎市の安震本社で

ゲルで免震脚光

同社によると、墓石は地方によって規格がさまざまだが、愛知県で多いタイプは一基六百キョー以上。墓石や石灯籠は重い石を積み重ねた構造で、地震で倒壊する危険がある。

そこで開発したのが、免震ゲル「安震はかもり」。直径六ミリの金属球と、金属球を囲む耐荷重リングを中央に埋め込んだ、五ミリ四方で厚さ五ミリの小さなパッドだ。二〇〇八年には特許も取得した。

同時に使う接着剤は、中越沖地震（震度6強）

揺れを吸収する特殊な素材でできている。

石の四隅に免震ゲルを貼り、接着剤で上下を接合。金属球が「支柱」となり、ゲルが石の重みでつぶれるのを防ぐ。石本体は加工せず、簡単に短時間で施工でき、耐久性が高いのが特徴という。

耐震実験では、この免震技術を施した墓石は震度7まで倒壊しなかった。〇七年の新潟

震度7も「安心」

岡崎の店
石材店

など、東日本大震災より前に起きた地震で倒壊はゼロ。東日本大震災でも、正しく施工をした墓石が倒壊した情報はまだないという。発売する予定だ。

同社グループは、これまで全国に墓石六八（文政十一）年。八万基以上を施工。比叡山延暦寺（大津市）や元興寺（奈良市）の石灯籠など貴重な文化財も手がけてきた。

三月には東京支店をオープン。さらに新市場を開拓しようとして、要

